

## 自分の専門領域と平成

何といっても挙げておきたいのは、多くの方々に認知されるようになってきたと思われる「8020 運動」です。ちょうど平成元年に当時の厚生省と日本歯科医師の提唱により掲げられたものであり、平成 20 年までに 80 歳の人々の 20%以上が 20 本以上の歯を持つことを目標にしたものです。歯を 20 本以上有する人と 19 本以下の人の間には、明らかに食べられるものに有為の差があり、より多くの食物を食べられる人の方が健康状態は良く、強いては医療費の削減に繋がるということで掲げられた運動です。

当初は、平均「8004」くらいを推移していました。一般的に国が提唱してきた健康促進運動は、達成年度を決めても予定通りに運んだことは皆無といつてよいのではないのでしょうか。

ところが、この「8020 運動」は目標の平成 20 年を前倒して、平成 16 年には 25% となり目標を達成し、30 年経った現在は 50%を超えています。

歯科マターのニュースは命に直接かかわることがなく、地味なためか大きく報道された記憶はありません。この目標を早くクリアできたのは、厚生省（厚労省）と日本歯科医師会の介入努力は勿論ですが、日本人独特の情報吸収能力や真面目さの所以ではないかと思っています。

テレビのワイドショーなどでココアが血糖値の減少や血流の促進作用があると報じられると、スーパーから瞬く間にココアが無くなる。近々では、堀ちえみさんの舌癌の報道後、心配して来院される方が数名おられたなど。このような現象は一過性のものでありますが、情報により人が動く証ではあります。

「8020 運動」への我々歯科関係者からの広報活動は、派手さが無い反面、生活に密着した情報のため、また継続的情報提供として存在し続けたことと日本人の真面目さの故、多くの国民に伝わったのではないかと思っています。

ただ、80 歳で 20 本以上の歯が残っても、残った歯が天然健全、あるいは人工的であっても健全状態でなければ意味がありません。そのための条件のうち、一番重要なのは口腔清掃（プラークコントロール）です。

この点でも、私が開業歯科医になった当初の 35 年前は、「あの歯医者にかかる」と

ブラッシング指導しかしてくれない」と陰口を叩かれたものです。現在は指導を求めて来院される患者さんが半分近くを占めるようになり隔世の感があります。

歯科全体としては熟成期に入ったのではないかと思います。平成は終わりますが、新元号を迎えるこれからも、もう少し歯科臨床を続けていく所存です。

【写真：古希手前でやっと出来た初孫と】

